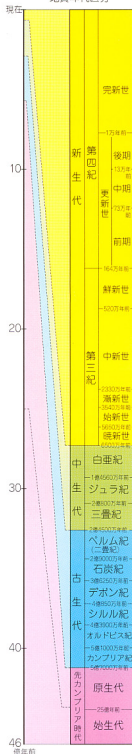


フォッサマグナ周辺のできごと

地質年代区分



↑ フォッサマグナ形成の時代

↑ 日本の土台となった地層が大陸東端で形成された時代

御嶽山の噴火(1979)

焼岳の噴火(1915, 大正4年), 大正池でできる

浅間山の天明の大噴火(1783)

新潟焼山の火山活動(3000年前~)

野尻湖のナウマンソウ(4~2万年前)

焼岳の火山活動(15万年前~)

妙高山の火山活動(30万年前~)

御嶽山の火山活動(74万年前~)

ハッ岳, 東嶺岳の火山活動(130万年前~)

世界で一番若い花崗岩(140万年前)
(穂高安山岩類を貫く滝谷花崗肉緑岩)

穂高安山岩類(175万年前)
(槍ヶ岳・穂高連峰の頂上付近)

戸隠山を作った火山活動(400-500万年前)

フォッサマグナの陸化はじまる
(花崗肉緑岩の露出, ロウ石, 隕石, 珪石鉱床の形成)
伊豆-小笠原弧が本州にぶつかり始める
→ **フォッサマグナ誕生, 海が広がる**
日本海が拡大し, 日本列島が大陸から分離

主な地震活動
長野県西部地震(1984)
松代群発地震(1965-1970)
大町地震
(1918, 糸魚川-静岡構造線活断層系の活動)
善光寺地震
(1847, 長野盆地西縁活断層系の活動)
牛伏寺断層(糸魚川-静岡構造線活断層系)
の最新活動(762? ないし 841?)

活断層
第四紀更新世後期から完新世(約13万年前~現在)に繰り返し活動し, 将来も活動する可能性のある断層のこと。
現在地層に残る複数の断層のうち, 特にこの条件に合うものを活断層と呼んでいる。

..... 第四紀の北アルプスの急速な隆起によって冷え切っていない花崗岩が露出



フォッサマグナ(Fossa Magna)(上図)
ナウマンが命名, 糸魚川-静岡構造線¹⁾の奥縁の大構造帯²⁾, 東縁は不明確, フィリピン海プレートが北進して本州の下に沈み込むに伴って, その東縁に位置する伊豆-小笠原弧が, 中新世のころから本州にぶつかってきた。今もその運動は続いている。

*1 構造線=地層の大きな境目となる新断層
*2 構造帯=原田と違う独特の地質構造と歴史を持つ地帯

ナウマン(E. H. Naumann)
明治初期に日本政府が雇ったドイツ人地質学者
日本に西洋の地質学をもたらした。1875年来日
地質調査所の設立を提唱し, 設立後は学務的役割を
果たした。ナウマンソウは彼の名にちなむ。

通商産業省 工業技術院 地質調査所
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3
Tel. 0298-54-3513, Fax. 0298-54-3533
http://www.gsi.go.jp/HomePage.jp.htm

フォッサマグナ周辺のできごと(詳しくは本文52ページ参照)